

大学で映像クリエイターは育つのか？

— ハリウッドと日本の現場から —

急速なデジタル化が進んだ 2000 年代、廉価な PC による映像編集とネットワークを使った配信が実現されると共に、数多くの映像系大学・専門学校が設立されました。しかし現在、就学人口の減少やメディア環境の変化等から見直しや再編を迫られています。その反面、映画・映像産業界では、長引く不況から人材育成にけるコストを減少せざるを得ず、新人教育を産学どちらも担えない状況に陥ろうとしています。

2014 年夏の 4K 放送開始、また 2020 年に予算倍増を予定する文化庁の文化芸術立国プランなど、日本の映像ソフトウェア産業への需要が高まりつつある中で、映画・映像教育はどのように在るべきか。日米の教育・育成プロジェクトの現状と課題を確認し、今後の展望について議論を行います。

PROGRAM

※各報告のタイトルは変更される場合があります。予めご了承ください。

第 1 部 基調報告 [13:00-14:45]

「ハリウッドの映像教育」リビット 水田 堯

「日本の映画・映像教育」原田 真人

第 2 部 活動報告 [14:45-15:45]

「若手映画作家育成プロジェクトの展開」富山 省吾

「映像クリエイターの育成」岡本 美津子

「早稲田大学川口芸術学校の取り組み」瀧 健太郎

第 3 部 パネルディスカッション [16:00-17:30]

リビット 水田 堯

原田 真人

富山 省吾

岡本 美津子

齋藤 秀夫

山本 一郎

黒田 昌郎

モデレーター：高橋 恭子（早稲田大学川口芸術学校長）

終了後 レセプション(会費制) [18:00-20:00]

2014 **3/15** (土)

早稲田大学 大隈記念講堂

[お申込みは Web サイトにて]

<http://wasedaart.waseda.ac.jp/>



リビット 水田 堯

Akira Mizuta Lippit

南カリフォルニア大学 映画芸術学部 映画批評科長。
映画、批評理論、日本の映画と文化、実験映像、視覚芸術を専門とする。著書に、「Atomic Light (Shadow Optics)」(2005、2013 に「原子の光 (影の光学)」として邦訳)、「Electric Animal: Toward a Rhetoric of Wildlife」(2000)、「Ex-Cinema: From a Theory of Experimental Film and Video」(2012)。



原田 真人

Masato Harada

映画監督、映画評論家。早稲田大学川口芸術学校 客員教授。
『わが母の記』(2012) で第 35 回モントリオール世界映画祭審査員特別グランプリ。ほかに『金融腐蝕列島 (呪縛)』(1999)、『突入せよ! あさま山荘事件』(2002)、『クライマーズ・ハイ』(2008) など多数。翻訳に『ケーブル・ホーグの男たち』(1991・めるくまーる)、『ノーツ』(1992・マガジンハウス)、『コッポラの黙示録』として 1993 再刊行 など。

富山 省吾 Shogo Tomiyama

日本アカデミー賞協会事務局長。元東宝映画代表取締役社長。

1975 年東宝株式会社に入社、宣伝部で、黒澤明監督『影武者』など 20 本を超える映画のパブリシティと宣伝プロデュースを担当する。1983 年東宝スタジオの製作プロダクション・株式会社東宝映画の企画部でプロデューサーとして映画製作を始め、2010 年までに 30 本の映画をプロデュースする。主な作品は『ゴジラ vs ビオランテ』以降のゴジラシリーズ 12 作品や『恋する女たち』、また日本アカデミー賞を複数受賞した『誘拐』『赤い月』など。

岡本 美津子 Mitsuko Okamoto

東京藝術大学大学院 映像研究科長。同アニメーション専攻教授。

1987 ~ 2008 年、日本放送協会 (NHK) にて、編成、番組開発、番組制作、イベント制作、デジタル TV・インターネット関連業務に従事。2008 年より現職。代表的な番組に『デジタル・スタジアム』、『デジスタ・ピギナーズ』、『テクネ 映像の教室』『E テレ 0655』『E テレ 2355』など。

齋藤 秀夫 Hideo Saito

前 NHK エグゼクティブ・カメラマン。(株) 映像工房 取締役。

『シルクロード』『大黄河』『21 世紀は警告する』『アインシュタイン・ロマン』『チベット死者の書』『未来の教室』など、数々の NHK 番組のカメラマンを務める。カナダアカデミー年間最優秀ドキュメンタリー撮影賞、朝日賞、ギャラクシー賞、映画テレビ技術賞など受賞多数。

山本 一郎 Ichiro Yamamoto

松竹株式会社 メディア事業部。

『たそがれ清兵衛』(2002)、『珈琲時光』(2003)、『おとうと』(2009)、『京都太秦物語』(2010) など数々の作品にプロデューサーとして携わる。『武士の一分』(2006) では脚本も兼務。近年は、小津安二郎作品のデジタル修復など、松竹作品のアーカイヴ事業にも参加。

黒田 昌郎 Yoshio Kuroda

アニメーション映画監督・演出家。

東映動画・日本アニメーションの演出・絵コンテとして、『狼少年ケン』(1963)、『ゲゲゲの鬼太郎』(1967)、『アルプスの少女ハイジ』(1974)、『母をたずねて三千里』(1976)、『ペリーヌ物語』(1978) など数多くの作品に参加。監督としても『フランダーズの犬』(1975、1997)、『いぬのえいが』(2005) など多数。